

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1. 個々の生徒の学力をより一層高めるために教科指導の質的向上に努めるとともに、あらゆる学習活動を通し表現力の伸張を図る。	① 生徒の学習意欲を高め、学力をつける授業の改善に努める。	理解される授業が展開されている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	生徒による授業評価（7月・12月） A：29％・30％ B：51％・53％ C：16％・14％ D：4％・3％ A+B=80％・83％	A+Bの割合が目標80％を超えたが、昨年度より前半は低下し、後半は昨年をわずかに上回ることができた。学習の導入段階での指導方法を検討するとともに、授業展開の方法についてより研究し、A評価の値がB評価を上回るようにしていきたい。次年度も継続していく。
		学力が向上している A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	生徒による授業評価（7月・12月） A：31％・33％ B：53％・52％ C：13％・13％ D：3％・3％ A+B=84％・85％	学力が向上していると感じている生徒が目標値の80％を超えているが、さらにC評価およびD評価の値が減少するように授業を工夫し、継続して取り組んでいきたい。
	② 習熟度別授業を生かし、個々の生徒の潜在する能力を引き出す。	習熟度別授業は授業が理解しやすく学力向上に役立っている A おおいに役立っている B まあまあ役立っている C あまり役だっていない D 役立っていない	生徒による授業評価（7月・12月） A：38％・38％ B：42％・42％ C：14％・14％ D：7％・6％ A+B=80％・80％	A+Bの割合が目標値の80％に近づいて到達できたが、昨年度より5％低下している。生徒の習熟度の把握がやや甘かったためか、習熟度に応じた授業展開になりきらなかった点が考えられるので、今後も取組を継続して改善に努めていきたい。
	③ 授業見学期間を中心に積極的に授業参観を行って自らの授業力向上に努める。	教員の授業見学をおこなった回数が A 4回以上である。 B 3回である。 C 2回である。 D 1回以下である。	年間実施回数（12月現在） 4回以上 41％ 3回 48％ 2回 10％ 1回 2％ 3回以上 89％	12月現在で、3回以上授業見学した人の割合が80％以上となることが目標値であった。今年度も、昨年度に続き目標を達成することができた。授業見学・研究授業が年間を通して計画的に行われているので来年度以降は平常業務としたい。
	⑤ 英語力の向上をめざす授業を展開し、英語検定の2級・準2級取得者の増加をはかる。	生徒の資格取得数が目標数の A 90％以上である B 80％以上である C 70％以上である D 70％未満である	準2級取得者（目標数 1年生の90% 326名） 1年生取得 320名（目標数の98.2%）→ A 2級取得者（目標数 2・3年生の30% 212名） 2年生取得 108名 3年生取得 89名 計197名（目標数の92.9%）→ A	英語科スタッフの熱心な指導の結果、1年生の準2級の目標達成結果はA(98.2%)、2・3年生の2級の目標達成結果もA(92.9%)となり、目標を達成できた。ちなみに1年の準2級取得者率88.4%(昨年度81.2%)、2・3年の2級取得者率27.8%(昨年度27.2%)という取得状況である。次年度は「英検全員受験」を実施しないこともあり、この取組は今年度で打ち切る。
学校関係者評価委員会の評価		全体的に、生徒・教員ともによく努力していると考えますが、改善策がもう少し具体的である方がよい。具体的な取組の設定が次年度の好評価につながる。③については、目標数値は達成しているが、1回が2％、2回が10％であるのが気になる。”教員”なのだからこれを無くすることを強く望む。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		学習時間調査、生活・学習実態調査など各種校内調査を活用し、詳細な改善策を個々のケースに合わせて具体的な取組を行っており、継続したい。③については、教科の特性（構成人数や実習準備、実技など）により、授業見学に行きにくい教科も一部あるが、全体的には授業見学が常態化しており、今後も見学期間などを設けて、より見学しやすい環境を整えていく。		

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 生徒が高い進路目標を持ち、目標に向かって邁進していくことのできる進路指導体制の確立をはかる。	① 1年は職業研究を中心に・企業施設訪問・大学見学等、2年は大学研究を中心に大学出張講義、インターシップ等の体験学習を行う。また全学年で進路講話を実施する。	各学年の取組が自分の進路選択にとって真摯に考えるための有効な機会になっている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	1年:大学見学(8月) A+B=77% 2年:インターンシップ(7・8月) A+B=85% 大学出張講義(10月) A+B=90% 進路講話 1年(10月) A+B=87% 2年(11月) A+B=96% 3年(6月) A+B=95% A(よくあてはまる)+B(概ねあてはまる)=88.3%	本年度の1年の大学訪問は、従前の本校単独の特別日程による訪問から夏季休業中のオープンキャンパスへの参加に変更した。そのため集計結果が昨年度(98%)に比べ低下したと思われる。他の取組は、ねらいや実施時期を改善したため、集計結果が全て80%を超え、目標値が達成された。これらの取組は、生徒が進路を考えるための重要な機会となるので、更に内容の改善に努め、次年度も継続していきたい。
	② 有効な資料を使った個人面談を大いに活用し、生徒に適切な進路指導をおこなう。	担任による個人面談を通して進路指導が適切に実施され、効果が上がっている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	職員による内部評価(7月・12月) A 24%・19% B 75%・76% C 1%・5% D 0%・0% A+B=99%・95%	集計結果ではA+Bが80%を超え、目標値が達成された。本年度は、進路指導資料の大幅な改良や、各学年の進路検討会の回数(1年,2年とも2回,3年は3回)を増やし、生徒情報の共有や指導方法の検討を重ねた。また、外部開催の大学研究会等の担任への資料回覧に努めたことも奏功の一因かと思われる。次年度は各学年ごとの達成目標と効果について充実させたい。
	③ 進路指導に関する教職員校内研修をより充実させ、指導力向上と生徒・保護者への情報の提供をおこなう。特に保護者に対してはHPも活用し、情報提供に努める。	進路指導・情報提供が適切である。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	生徒(7月・12月) 保護者(7月・12月) A 19%・15% 21%・30% B 69%・67% 69%・63% C 11%・15% 9%・7% D 1%・3% 1%・0% A+B 生徒85%, 保護者92%	集計結果では、生徒、保護者ともに80%を超え、目標値を達成している。本年度は進路資料の活用方法の説明会を教職員に行い指導力の向上を図った。次年度は外部機関の情報の活用法について教員向け研修を実施し、情報活用能力の向上を支援したい。また、HP等を用いて保護者に対して時宜に合った進路情報を積極的に伝えたい。次年度も継続していく。
	④ 生徒に高い進路目標を持たせ学習に意欲的に取り組ませることにより、学年当初と学年末における校外模試全国偏差値の高い生徒数の維持、増加をはかる。	1年と2年で、1月に実施の校外模試における全国偏差値60以上の生徒数は、7月に実施校外模試結果に比べ A 120%以上となった B 100%以上となった C 80%以上となった D 80%未満となった	偏差値60以上の生徒数 1年進研模試 1月 197名 7月 209名 評価 → C 2年進研模試 1月 160名 7月 195名 評価 → C	集計結果では、1年、2年ともに評価結果がCであった。進路志望調査では、難関大学志望者が、1年は2回目(62名(1回目57名))、2年は3回目123名(1回目130名)でありほぼ変わらないので、高い志望に見合った成績の維持・向上を図ることが急務である。次年度も引き続き各教科で志望進路実現のための学習意欲を高める指導を工夫し、学力を伸ばしていきたい。
	⑤ 難関大学訪問等に積極的に参加させ、志望校別補習を充実させるなど、上位層に対する指導体制を確立する。	生徒の合格者数が目標数の A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	国公立大学合格者(250)→237名 95% 評価 A 難関大学合格者(50)→ 39名 78% 評価 C 金沢大学合格者(100)→ 68名 68% 評価 D	国公立大学は評価がAで目標が達成できた。難関大学は評価がCであるが達成率78%であった。現役で、東大1名、京大2名、金大医学類1名の合格者を出すことができた。上位層の集団には現状の指導を継続していきたい。金沢大学は評価がDであり、授業の質を高める等中間層を伸ばす工夫をしたい。
学校関係者評価委員会の評価		全体的に良い指導がなされていると判断する。 ②において、7月(99%)より12月(95%)が下がったのは、何が原因かを明確にしておく。 進路指導に関しては、種々の工夫がなされているので継続をして欲しいが、生徒側からの評価がやや低いので、より適切と評価されるような改善を望む。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		②については、4月～7月に比べ、9月～12月の面談内容が深まり、それに見合う資料提供が少なかったため、下がったと思われる。 教職員の情報活用能力を向上させる研修を充実させ、進路情報について生徒や保護者にわかりやすい説明が出来るようにする。		

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 健康の促進と体力の向上を図りながら、学習時間を確立し、品位ある言動ができる自己管理能力を育成する。	①学習時間調査を定期的に実施し、結果を教職員に周知させ、ホーム担任・教科と連携して家庭学習課題等を検討し、学習時間の増加をはかる。	年間を通して目標時間の達成率は A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	平均家庭学習時間達成率 7月～9月 10月～1月 1年 70% 評価D 69% 評価D 2年 100% 評価A 100% 評価A 3年 70% 評価D 9月に100%達成	集計結果は、前期の3年はD、2年はA、1年はDであったが、3年は9月に100%を達成しA、後期では2年、1年ともに引き続きA、Dであった。確かに1年については、家庭学習習慣が定着していない生徒が多く、学習と部活動の両立ができていないと考えられる。1日の時間の使い方を生徒に点検させ改善させる手だてを1年学年団と検討していきたい。今後は平常業務とする。
	②品位ある服装容儀を確立するために全職員の一致した指導と生徒の自覚を求める。	生徒のみだしなみや挨拶には好感が持てる A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	生活実態調査 服装 A+B=89.7% 挨拶 A+B=97.1%（中間92.3%） 教職員アンケート 服装・挨拶 A+B=45.4%（中間41.7%）	生徒の自己評価は高いが、教職員の評価は低く、かなりのギャップが見られるが、立場の差にもよるところがある。少しではあるが、よくなっている傾向にある。社会生活で大事な要素であるので、生徒の規範意識の向上および定着を目指し、今後も粘り強く、教職員の共通理解のもと継続して取り組んでいく。
	③規則正しい生活習慣が身につくよう朝の5分前登校、夕方7時の完全下校を守る。	生徒は朝の5分前登校、夕方7時の完全下校を守っている A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	生活実態調査 5分前登校 A+B=86.8%（中間90.0%） 完全下校 A+B=96.9%（中間75.0%） 教職員アンケート 5分前登校 A+B=93.7%（中間91.4%） 完全下校 A+B=84.4%（中間92.8%）	遅刻は2年前から激減し、その状態を維持しており、生徒・教職員とも評価は高くなっている。中間の時と同様、規則正しい生活については、60%台と低くなっており、体調不良で遅刻・欠席する生徒が少なからずいる。今後も取り組みを継続していきながら、学年や相談室・保健室等との連携を取りながら、生徒の体調管理も含めて指導していく。
	④様々な読書活動を通して生徒の読書意欲を向上させ、図書館の貸出冊数の増加をはかる。	図書貸出生徒の割合が前年度より A 10%以上増加した。 B 5%以上増加した C ほとんど変化がなかった。 D 5%以上減少した。	12月の調査では、昨年度に比べ、図書貸出生徒数の割合が44%（471名）から34%（362名）へ、貸出冊数は3163冊から2700冊へと、大きく減少した。 評価 D	貸出生徒数は昨年度に比べ、1年生が120人（-55）、2年生が137人（-51）と大きく減少した。生徒の多忙化などのあらわれともいえるが、できるだけ多くの生徒が図書室に来室するように図書委員の活動を増やし、一般生徒向けのイベントも行っていきたい。各学年・教科にも協力を求め、生徒に読書の勧めを呼びかけていく。次年度も継続していく。
	⑤生徒が自ら健康課題に積極的に取り組み、体力の向上をはかる。	体力テストにおいて前年度全国平均値より高い項目の数が男女ともに9項目中の A 6項目以上 B 4～5項目 C 2～3項目 D 2項目未満	男子 1年 8 2年 7 3年 8 女子 1年 7 2年 6 3年 4 評価 A	1校1プランの取組を2年間継続してきた成果もあり、生徒の体力はアップしてきていると感じる。次年度の体力テストの結果をもとに経年比較をし、取組の成果を検証してみたい。さらに、生徒は体を動かすことには積極的だが、基礎体力をもう少し付けさせたいと思うので、次年度も継続していく。
学校関係者評価委員会の評価		全体的に問題無いと考える。 ④についても、現状やむを得ないと思うが、小・中学校とかなり力を入れている読書指導をうまく引き継いで取り組んでほしい。 健康の大切さを理解していても、実生活に結びつきにくいのが若さであるが、若さ、健康は取り戻しがたいものなので、強く指導をして欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		図書課の行事（読書週間・校内読書感想文コンクール等）の継続と図書委員会の活動の活性化を図ることで④に取り組む。 学校保健委員会の提言を参考に体育科や保健環境課を中心に健康や体力の増進に取り組む。 部活動の活性化にむけ、生徒会で主催する栄養面やメンタル面、ゆる体操（けがの防止）などの講演会を計画する。		